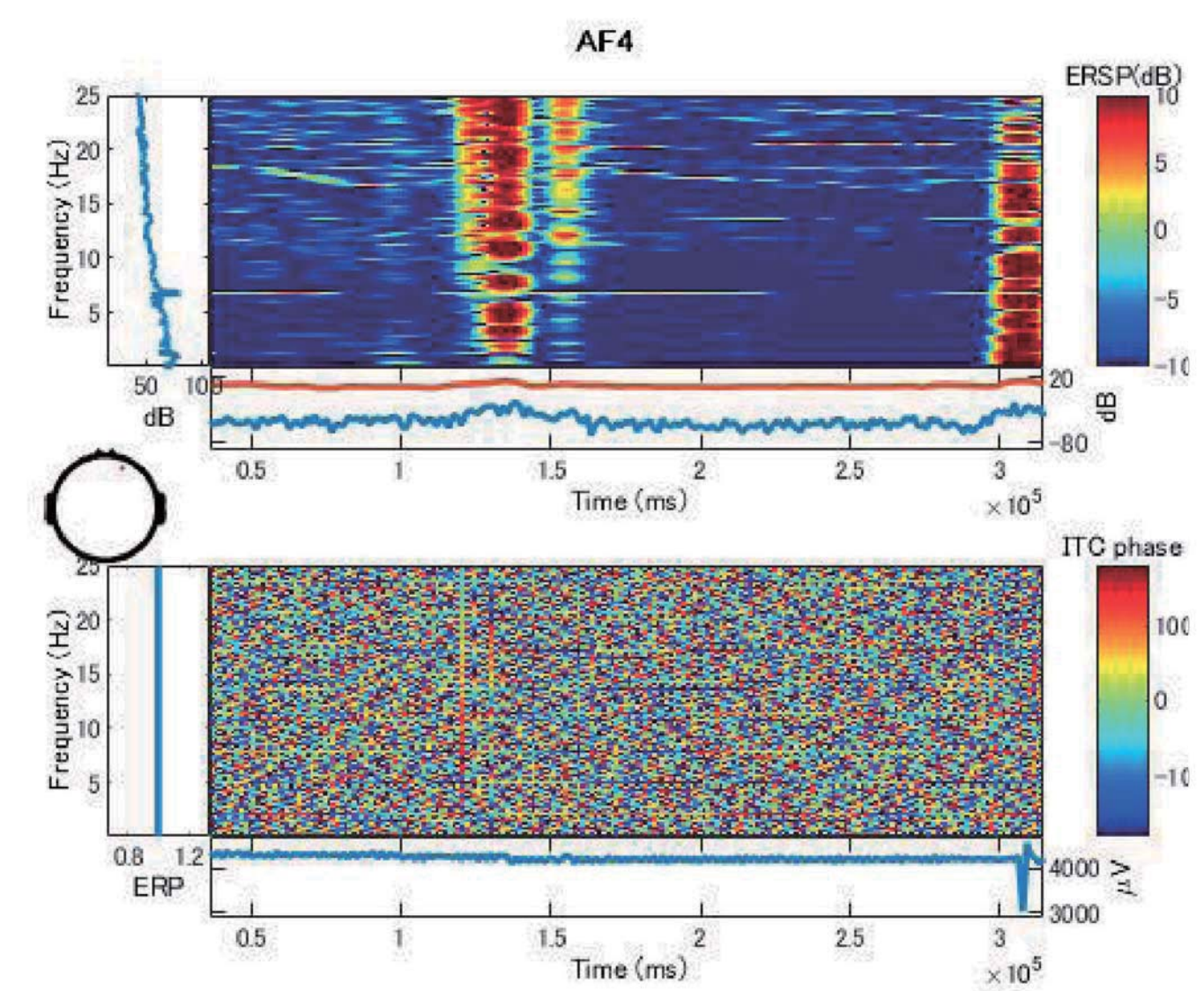


人間の視覚行動からみた都市空間の設計基準

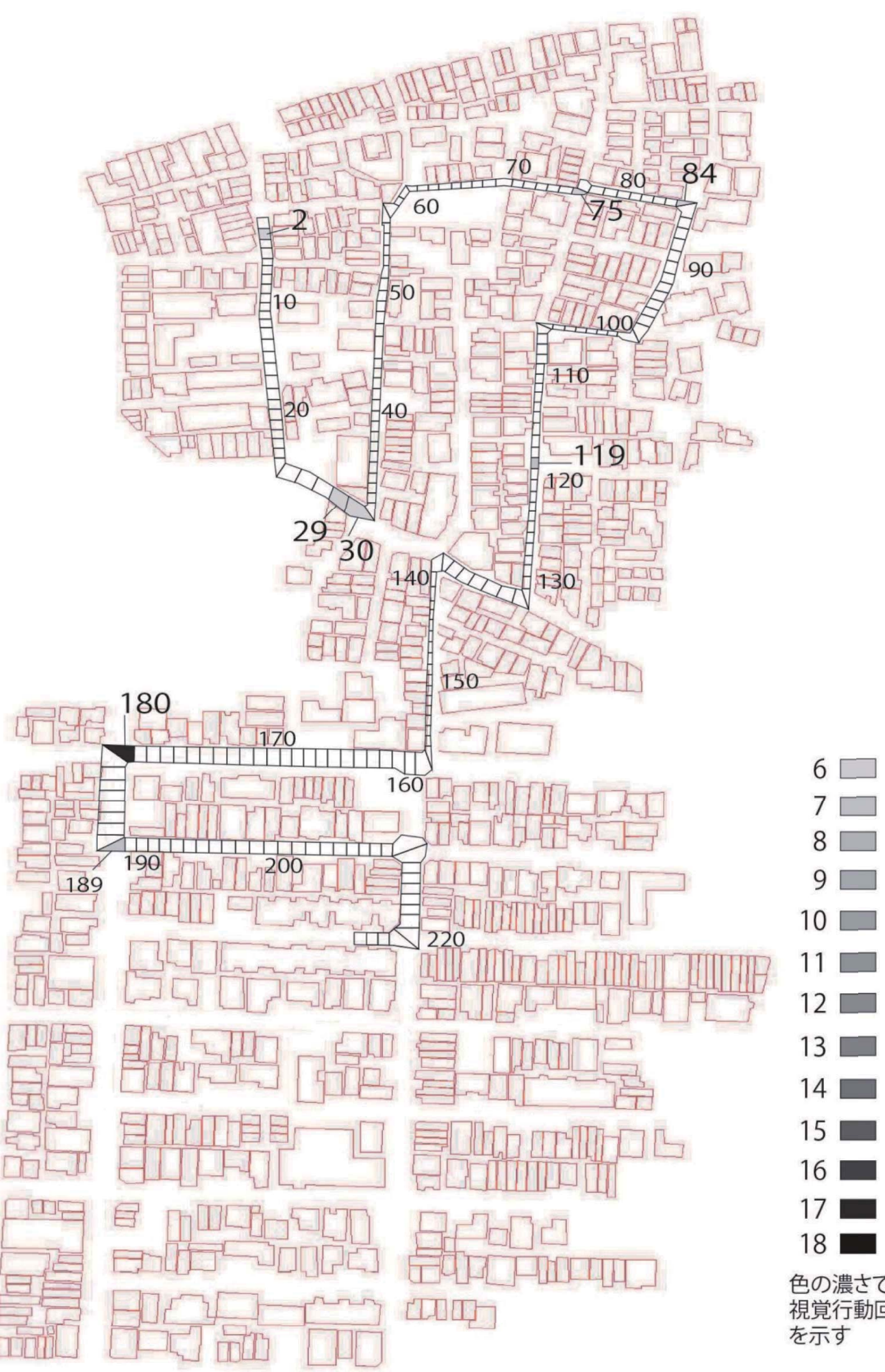
建築や都市は生活基盤として、人間に対し大きな心理的影響力を持っています。基本的な人間の移動方法を考えれば、そのデザインは歩行によって我々が得た空間能力に関する研究成果が生かされたものとなるのが理想的だと考えられます。研究室では、空間能力を司り評価を行う脳機能の左右差や個人差を検討する事から、人間が理解しやすい建築空間、都市空間をつくるための方法を、人間の視覚行動を計測したデータや、脳波計によるデータをもとに探ります。



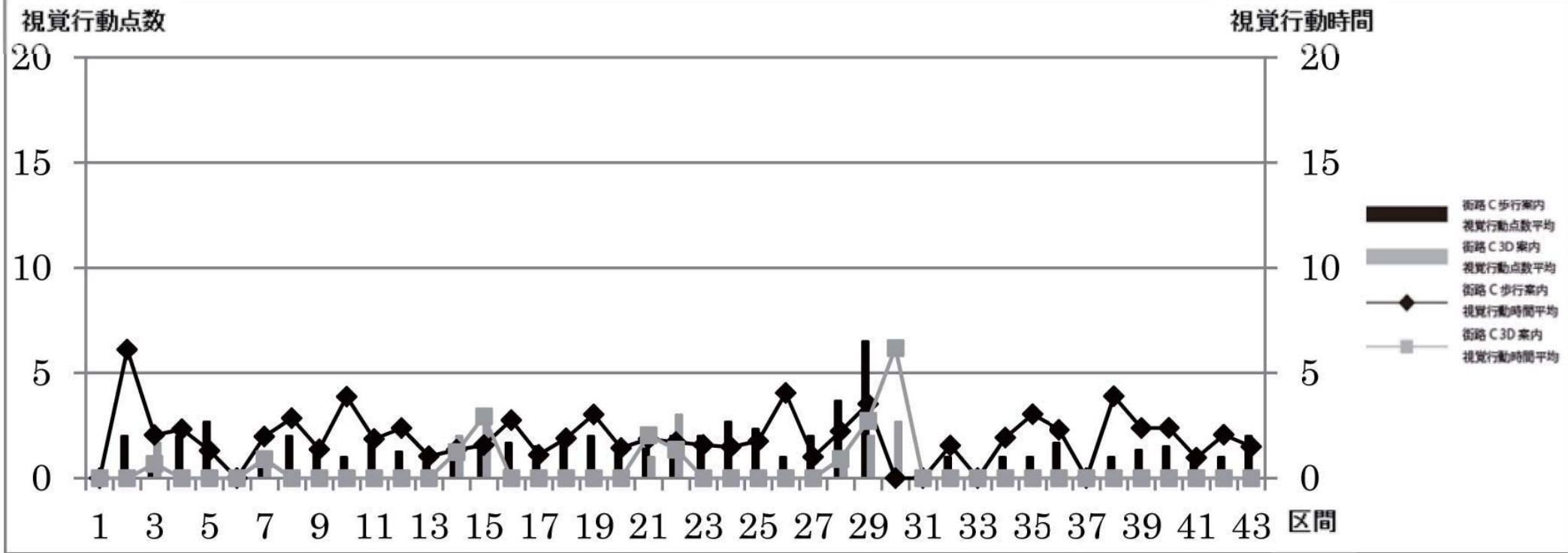
携帯可能な小型脳波計による脳波計測



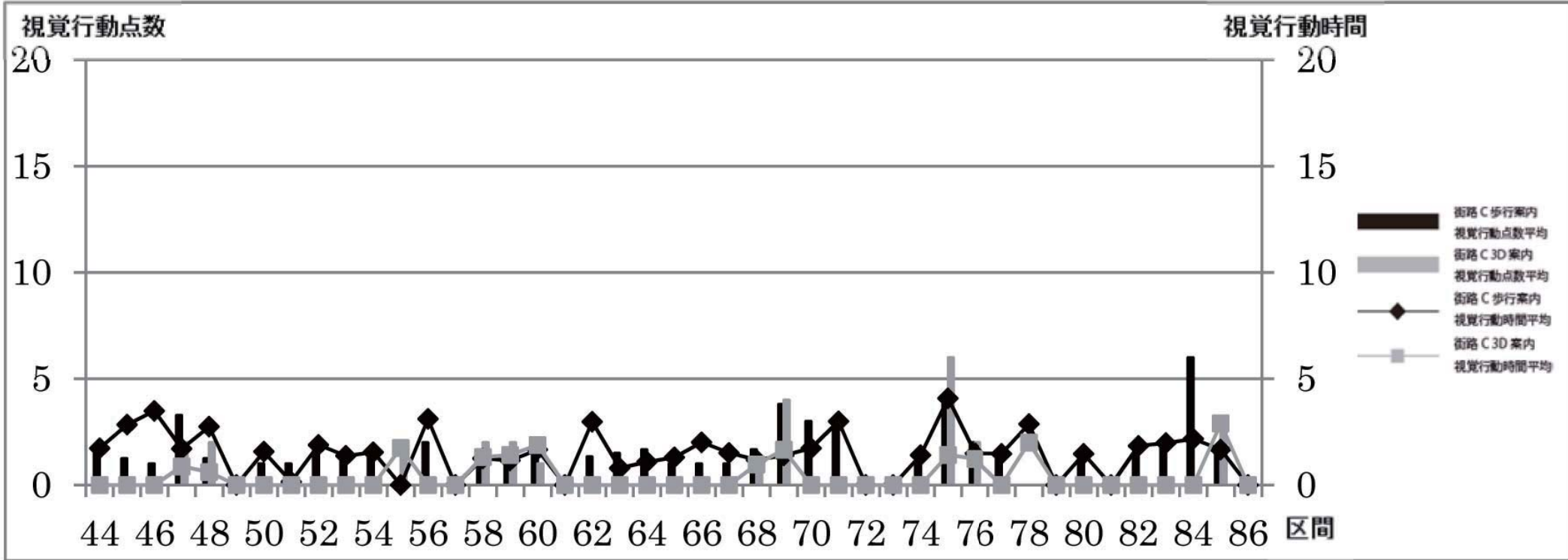
経路探索時の脳波計のデータ



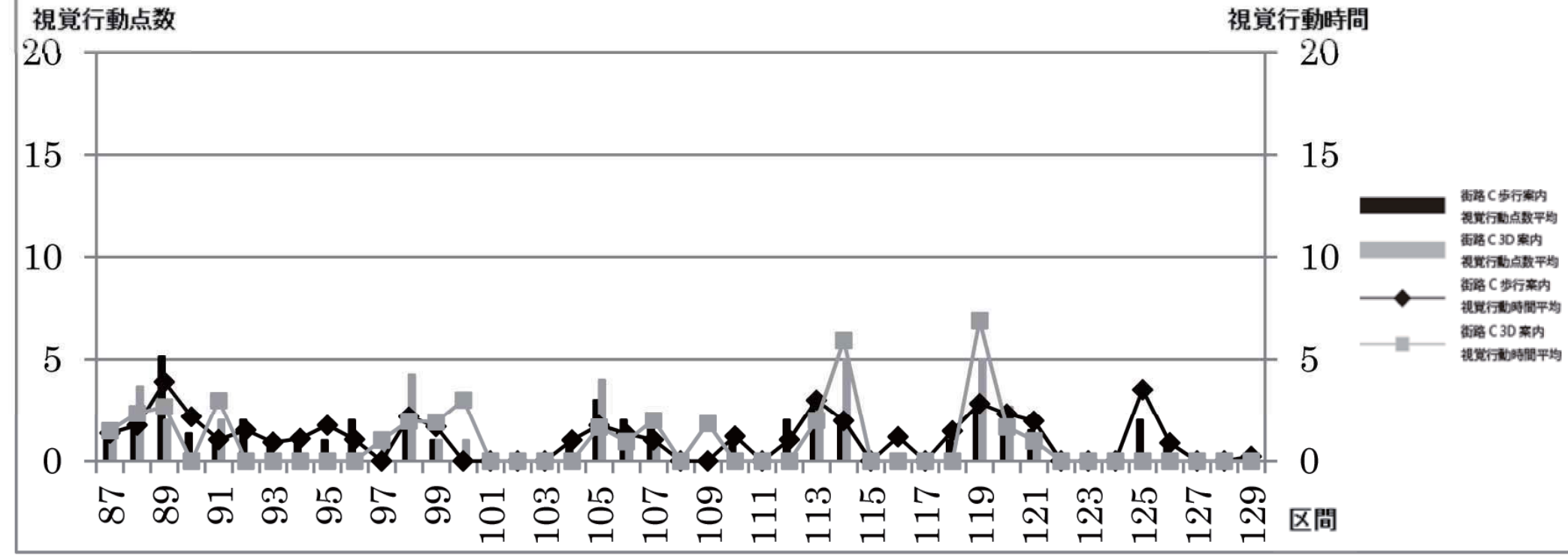
実験街路 (大阪市旭区での実験)



視覚行動の計測 区間1-43 (大阪市旭区での実験)



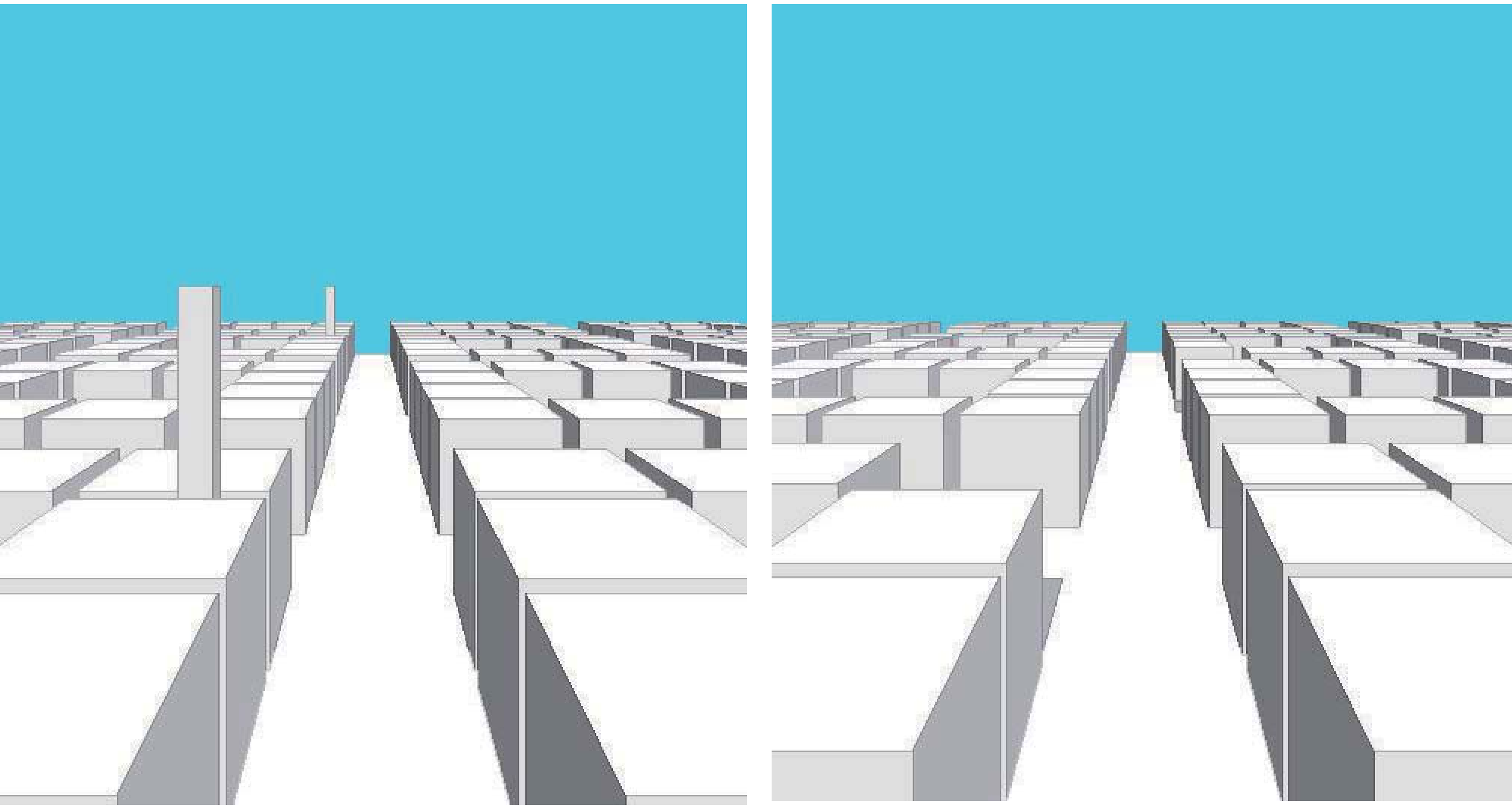
視覚行動の計測 区間44-86(大阪市旭区での実験)



視覚行動の計測 区間87-129(大阪市旭区での実験)



回頭行動計測：街路パターンの組み合わせによる分かりやすさの比較（大阪市旭区での実験）



経路探索行動計測：異なる空間的サインによる分かりやすさの比較（CGによる街路での実験）

注1)視覚行動：文献1によって示された、人間が空間の中で視覚的な情報を得て、とる行為。      文献1：宮岸幸正・村野博司：景観のシークエンスに関する基礎的研究-景観視覚行動と空間の開閉度を中心として-日本都市計画学会学術研究論文集pp433～438,1991.1.1